

# 平成21年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 人間関係学部

フリガナ

氏名 西出 弓枝

研究期間 平成21年度

研究課題名 特別支援教育における効果的な移行支援方略の検討

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	西出 弓枝	人間関係学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

平成19年度より特別支援教育が展開し、効果的な支援方法が検討されるようになってきており、小中学校においても各自のニーズに応じた支援が適切に行われるようになってきている。このような取組は、多くの場合には担任教師と特別支援教育コーディネーターの連携において行われるようになってきているが、単年度だけではなく継続した支援を行うために、教員間の引継ぎや支援カルテへの記入のあり方が問われるようになってきている。そこで、本研究においては、学校がどのような支援を行い次年度以降に継続していくのかという点について、調査研究および事例研究を行った。

## 2. 研究方法等 (300字以内で記述)

研究方法：質問紙法および面接法による調査を実施した。  
調査対象：小学校のニーズを有する児童4名を担当する教師に、児童のニーズの把握および支援方法に関する質問紙調査を実施した。また、過去に筆者が相談を担当した児童4名の担当教諭・特別支援教育コーディネーターと面接内容とその後の結果から、行われた調整内容、支援継続状況をポイントに確認作業を行った。  
調査内容：質問紙法では、西出・布元(2006)にもとづき、児童のニーズの把握、当該年度に行った支援について、チェックリスト形式で回答を求めた。また、面接法においては、児童の理解、児童への支援のあり方、年度間の移行への配慮について聴取した。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

質問紙調査：児童のニーズについて、調査結果より、学習障害の疑い1名、広汎性発達障害の疑い2名、知的障害の疑い1名であり、学習上の課題がある者3名、行動上の課題がある者2名という結果を得た。また、学習面6領域・行動面4領域のなかでニーズがあるとされた課題に相関して教師による支援が行われており、ニーズに応じた支援はどの児童においてもおおむね適確に行われていることが伺われた。しかしながら、調査用紙において把握された児童のニーズから窺われる児童の特徴と教師の捉えた児童の特徴が一部異なっていることがあり、行動上の課題があり、特に多動の場合には広汎性発達障害の問題より注意欠陥多動性障害の課題として認識されやすいことが示唆された。支援に関しては、学習・行動双方ともニーズが高く評価されている場合には担任のみではなく、コーディネーターや管理職も把握し、校内委員会による検討が行われているが、ニーズの評価が低い場合には、担当教諭の把握と支援に限定されていた。また、校内委員会で児童のニーズや支援方針が検討されている事例はあるものの、ケース会議や校内研修会での検討はほとんど行われておらず、このような傾向は西出・布本(2006)の結果と一致するものであった。

面接調査：筆者が担当した児童の担当教諭および特別支援教育コーディネーターとの面接内容とその後の経過の確認作業から以下の3点が明らかになった。①学校側が校内委員会としてニーズを把握している児童の場合、支援の継続や移行し際する配慮が行われやすく、学校側が担任のレベルでしかニーズを把握していない場合には筆者が移行支援を意図して面談を行っても次年度への効果的な支援継続が行われにくいこと、②特別支援教育コーディネーターが支援計画や記録を十分把握している場合に支援が継続しやすいこと、③行動上の課題に対する配慮は個人だけでなく、クラス運営の視点が必要であることである。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①特別支援教育	②発達障害児	③ニーズ	④移行支援
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

今後、LD学会、学部紀要人間関係学研究において研究成果を公開予定。